

飛騨文芸祭と江夏美好

飛騨文芸祭審査員 林 格男

第三十六回飛騨文芸祭が近づいてきましたが、今年は奇しくも郷土出身の作家江夏美好が亡くなってからちょうど三十年目にあたります。

江夏さんは、大正十二年神岡町に生まれ、高山高等女学校へ進みますが、病のため中退して金沢で静養。その後大阪へ出て、たまたま作家江夏茂一郎氏に出会って結婚、文学の道を志すことになりました。

江夏さんは、夫の転勤の都合で富山などを経て最後に名古屋に居を構え、本格的な作家生活に入ると同時に、昭和三十四年には自ら主宰して同人誌「東海文学」を創刊します。「東海文学」は規模が大きき、稀れにみる質の高さを誇っていました。

江夏さん自身は歴史小説に道を見出し、「脱走記」（昭和三十八）、「流離の記」（同四十二）は直木賞候補に推されます。しかし入賞は果たせず、ようやく昭和四十六年、白川郷平瀬に生まれて明治・大正・昭和という激動の時代を生き抜いた自分の母の生涯を描いた大作「下々の女」（河

出書房新社刊）によって、女流作家の登竜門、田村俊子賞を受賞します。

高山でもその受賞祝賀会が盛大に催されましたが、その後江夏さんの体調に異変が生じ、昭和五十七年七月、五十九歳の若さで他界されました。

高山文化フォーラム2012

六月二日・三日、市民文化会館にて「高山文化フォーラム2012」を開催しました。

今年の勅題「岸」をテーマに各団体が日頃の成果を発表し厳正なる審査の結果、次の団体が入賞しました。審査員の講評とあわせて紹介します。

『芸能の部』

〈大賞〉

○日本舞踊 若柳臣流 久美華会
▼真剣さと熱意を強く心に受け、大人と違った純粹の所作



高山市文化協会では、生涯を文学に捧げた江夏さんの功績を称えて、平成元年、飛騨文芸祭に「江夏美好賞」を創設しました。近年、飛騨文芸祭が盛大になってきたのも、江夏さんの功德か、と思ったりします。

ちなみに「下々の女」の主人公ちなは、晩年白川郷へ帰ってその波乱の生涯を閉じました。荻町には今も「ちなの家」が遺されています。

の美しさに感動し、芸術性の高い点を評価しました。

○高山陣屋太鼓



▼情熱・雄大さ・勢い・美しさを取り入れ「海への祈り」という魂を表現されたことを評価しました。

〈文化フォーラム賞〉

飛騨文芸祭作品募集中!

- ◇対象 飛騨地域在住・在勤・出身者
 - ◇ジャンル 小説・戯曲・児童文学・随筆・エッセイ・評論・現代詩・短歌・俳句等
 - ◇応募方法 郵送等〈氏名(筆名)、住所、連絡先を明記〉
 - ◇締切 平成24年8月15日(消印有効)
 - ◇参加費 無料
- 詳細は文化協会(34-6550)へお問い合わせください。



○華翔会
▼まとまりと美しさが最高でした。屏風、衝立という和を装い、平安時代の色彩で雅さを感じさせました。

〈文化フォーラム賞〉

○飛騨俳句会

▼「岸」というテーマで自分の心の感動と自然という諷詠を一句一句感じさせるものでした。

○木版画同好会

▼初心者講座の会員の方の発表も同時に行われ、文化の伝承という意気込みが感じられました。

〈審査員特別賞〉

○飛騨嵯峨御流会

○中日写真協会 飛騨支部

『審査員講評』

東日本大震災の追悼の想いを表現されているものが多い、情緒性ある心落ち着くものが多くみられました。毎年出演・出品されている団体は切磋琢磨され、新たな出演者・出品者が舞台と作品に明るさと力強さを感じさせました。

『展示の部』

〈大賞〉

〈審査員特別賞〉

○日本舞踊 西川流 鯉之祐会
○現代津軽三味線徳山流 藤泉会

ご報告

第12回

市民歴史散歩
「畑佐城址」新宮神社

六月十七日に実施した市民歴史散歩には、新宮町内会の方も含め百二十名のご参加をいただきました。



梅雨の合間の晴天に恵まれ、新宮町史跡文化財保存委員会の皆様にご案内いただき、道を整備していた

畑佐城址は新宮神社裏手の山頂に立地し、上枝地区南半分と山田城を眺望できる見晴しの良いところです。文化財めぐりウォークラリーのコースとして整備されています。

お知らせ

文化協会員の野畑国久さんが、春の叙勲・褒章において「藍綬褒章」(消防功績)を受章されました。お祝いを申し上げますと共に、今後のますますのご活躍をお祈りします。



で、今回参加できなかった方は、一度登られてみてはいかがでしょうか。

初心者入門講座

劇団太陽演劇塾
(主宰 中田裕一)
参加者募集中!

◆日程 八月〜十一月の不定期に開催。随時参加可

◆内容 稽古見学、ワークショップ、公演制作に参加

◆特典 十一月開催の本番公演にご招待
詳細は文化協会まで。

(社)高山市文化協会加盟団体

文化協会後援 催事のお知らせ

◇翔山会 謡曲大会

・日時/七月八日(日)

・正午〜午後五時三十分

・会場/文化会館小ホール

・入場料/無料

東京からプロ四名を招き、共に素謡・仕舞を披露します。

【記事訂正のお知らせ】

前号で日展作家・吉川菊麿さんの作品を「日本画」とご紹介いたしました。が、「版画」の間違ひでした。お詫びして訂正します。

高山市文化芸術鑑賞事業

平原綾香

Concert Tour 2012

〜ドキッ!〜



あのデビュー曲「Jupiter」からNHK-TV『ダーウィンが来た!』新テーマ曲「スマイルスマイル」まで、誰もが知っている名曲をセレクトした、ドラマティック&パワフルなステージにあなたも ドキッ!

平成24年 9月20日(木)

午後6時30分開場/午後7時開演

高山市民文化会館(大ホール)

※未就学児入場不可

チケット 6,500円 全席指定

発売日 メセナメイト先行発売 7月21日(土)

一般発売 7月22日(日)

両日とも発売は午前10時から
購入整理券をお配りします。

発売所 高山市民文化会館(TEL.0577-33-8333)

飛騨市文化交流センター(TEL.0577-73-0180)

※ホームページからの購入は22日午後1時より(前払振込)

○主催 高山市 / 社団法人 高山市文化協会

○問合せ (社)高山市文化協会(TEL.0577-34-6550)/www.takayama-bunka.org

「岡目(目)」

「ガンモンモって何のこつちゃ」とかなり年配の人に聞かれて驚いた。高山の人なら、まして年配の人なら皆知っていると思っていたから。

岩島周一さんの「飛騨の方言」には「仏具の椀型の鉦。棒状の撞木で打ち鳴らす」と書いてある。仏壇の前に小さな座布団などに乗せて置いてある。チーンと鳴らしてからナムアマダブツとなるあれだ。

因みに「ガンモンモ」と「モモンガー」と「ガガモ」の違いはお分かりだろうか。

「モモンガー」は動物のムササビのことで、飛騨弁ではバンドリになる。晩に飛ぶ鳥に似ているからという。

「ガガモ」は、やはり岩島さんの本では「架空の怪物。お化け、死者、幽霊」となっている。

「レディ・ガガ」は海に向こうの全く別もの。

味のある方言が消えて行く。飛騨の人同士でも話しが合わなくなっていく。

私も筆名はガンモンモより、ガガモの方が自分に合っているのかなと思う。(それでもガンモンモ筆)

あたらしい 平原綾香のコンサート、はじまります。



企画制作



MSE Planning

後援

DREAMUSIC